

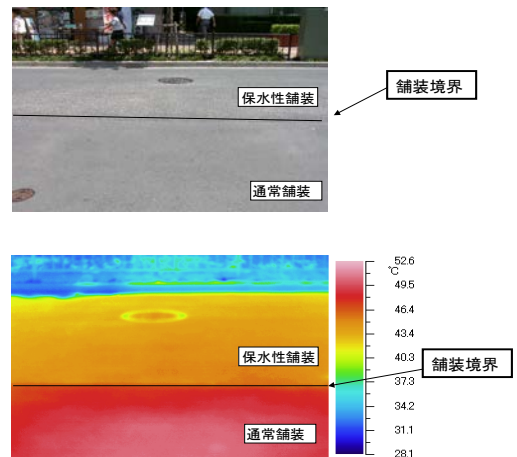
今夏の保水性舗装の温度低減効果の調査結果について

今年の夏も、保水性舗装の温度低減効果を確認するために、散水を行い保水性舗装と通常舗装との温度差の確認をしました。

1 測定の概要

- ①測定日時 平成17年8月9～8月15日
- ②温度測定方法 通常舗装及び保水性舗装の表面1cm
下に設置してある熱伝対温度計により測定
- ③測定箇所 横浜駅根岸線（西区平沼1丁目）、
バイスタース通り、
レモンロード（港北区太尾町）
- ④散水日 平成17年8月10日
(1平方メートルあたり約1リットル)

バイスタース通り(8月17日撮影)



(赤外線カメラによる舗装表面温度イメージ)

2 測定結果（通常舗装と保水性舗装の温度差[単位：℃]）

測定箇所	散水日の測定温度差	降雨後の測定温度差
	8月10日	8月14日
横浜駅根岸線	5.3	7.2
バイスタース通	6.1	9.1
レモンロード	8.9	11.0

※比較する温度は、通常舗装と保水性舗装それぞれの日最高温度の差としました。

3 測定結果のまとめ

路線ごとに、日照時間、車の交通量、周辺の建物や構造物影等それぞれ条件が異なるため、同一の結果は得られませんが、次のことが確認されました。

●散水、降雨で効果増

散水や降雨により、保水性舗装が水分を保水しその気化熱作用で温度の低減効果がより得られます。

●経年的な効果あり

供用3年目の路線（横浜駅根岸線、バイスタース通り）は、供用1年目の路線（レモンロード）より多少温度低減が劣るものの効果は確認されました。

●日照時間が決め手

太陽の日照時間が、長いほど温度の低減効果が大きくなります。